

# 船舶事故調査報告書

平成23年4月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 石川 敏 行

委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成22年7月25日 20時10分ごろ
発生場所	不明（鹿児島県種子島東方沖）
事故調査の経過	平成22年7月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 十八将 <sup>しょうた</sup> 太丸、6.6トン MZ2-30091（漁船登録番号）、個人所有 11.99m(Lr)×3.28m×1.36m、FRP ディーゼル機関、120（漁船法馬力数）、平成2年2月23日
乗組員等に関する情報	船長 男性 47歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成22年2月9日 免許証交付日 平成22年8月25日 (平成27年2月9日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損（廃棄処分）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、種子島東方沖を北進中、左舷側に傾きだしたので、船長が機関室を点検したところ、床上約30cmまで海水が溜まっており、間もなく主機が停止し、平成22年7月25日20時10分ごろ、左舷側に転覆した。 船長は、船内から脱出して船底に上がっていたところ、26日05時45分ごろ、海上保安庁のヘリコプターに救助された。 本船は、タグボートによって鹿児島県西之表市田ノ脇港にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波高 約0.5m、水温 約27～28℃
その他の事項	本船は、平成22年1月に中古で購入された。 本船は、甲板に海水を散水するため、機関室左舷側船底付近に設置された雑用ポンプを運転中であった。 本船は、ビルジポンプが水没し、機関室に溜まった海水を船外に排水することができなくなった。 本船は、雑用ポンプのグランドパッキン交換及び海水漏えい量調節等の点検及び整備を行っていなかった。 船長は、転覆後、本船の船底に上がって救助を待つ間、船底を含めて船

	<p>体には亀裂、破孔等の損傷がないことを確認した。</p> <p>機関室内の海水配管系統には、本事故後、亀裂、破孔等の損傷箇所は発見されなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>本船は、種子島東方沖を北進中、機関室内に海水が入ったため、左舷に傾斜して転覆した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、雑用ポンプのグランドパッキングが経年劣化して同部から海水が浸入した可能性があると考えられるが、浸入の経過を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が種子島東方沖を北進中、機関室内に海水が入ったため、左舷に傾斜して転覆したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	